

大学院看護学研究科看護学専攻	
学籍番号	D N1301
氏 名	大竹 眞裕美
学位の種類	博士（看護学）
学位授与年月日	令和 2 年 3 月 16 日
学位授与の要件	学位規程第 4 条第 2 項該当
論文題目	中規模精神科病院における教育システムの構築方法に関する研究 ～中堅看護師の育成を中核においたアクションリサーチ～
主指導教員	永井 優子 教授
副指導教員	春山 早苗 教授
	本田 芳香 教授
論文審査委員	主査：半澤 節子 教授
	副査：成 田 伸 教授
	副査：永井 優子 教授

### 最終試験の結果の要旨

自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程学位論文審査基準に基づき、厳正かつ公正に審査した結果を以下に報告する。

#### 1. 研究テーマの目的の明確性および広域実践看護学分野の目的との適合性

本研究は、看護職員数に占める准看護師の割合がほぼ半数という典型的な私立の単科精神科病院という環境で、質の高い看護実践に資する教育システムの構築方法について検討したものである。①中堅看護師の育成、②看護職員教育の実施体制の整備、③看護部の運営体制の整備という 3 つの課題に着目し、4 つの目標を設定したうえで、看護師長、中堅看護師の両者がアクションリサーチの活動推進者として役割を担い、そうしたアクションの結果について多様な記録物をデータとして用いて分析している。こうした研究成果は、精神看護学及び看護管理学等の複数の看護専門領域の視座から、看護ケアを効果的・効率的に提供するための看護師現任教育システムづくりに寄与するものであり、広域実践看護学分野の目的に適合している。

#### 2. 研究の独創性・革新性

本研究は、看護師長及び中堅看護師によるアクションにより、中堅看護師の質の高い

看護実践力が育成され、病棟および院内の委員会等の組織・部門運営体制が強化された点を詳細なプロセスとして記述し分析していることに独創性が認められる。

一般科に比べて看護職の就業年数が長い精神科医療機関では看護実践の質の向上に中堅看護師の教育が効果的であるといわれている。こうした現状において本研究は、看護師長及び中堅看護師によるアクションに着目し、それによる変化を記述したという点で、精神科医療における革新的な看護管理・教育システムの構築に貢献する。

### 3. 実践的意義、社会的意義

我が国の精神保健施策は「病院中心から地域生活中心へ」と本格的な転換を図っており、患者の平均入院期間の短縮という成果はあるものの、一方で長期入院患者の大幅な減少には至っておらず、精神科特例による劣悪な人員配置基準による影響も残されている。こうした状況の中で、本研究は看護師長及び中堅看護師の機能強化を図り、病院全体の看護の質の向上をもたらすという点で実践的意義がある。また、本研究のようなアクションとその成果を公表することで、精神科医療への影響を及ぼすのみならず、患者・家族にも希望をもたらす点で社会的意義がある。

### 4. 研究方法の妥当性

研究対象施設における看護実践の3点の課題を解決するための活動（アクション）として中堅看護師育成プログラムを位置づけ、活動の前後の変化についてデータを分析し、信頼性及び妥当性のある研究方法により結果を示している。1月6日の論文審査では、活動（アクション）に関するデータの示し方に課題を残したが、1月24日の論文審査ではこの点は簡潔に示され、また、活動（アクション）の結果のひとつとして、中堅看護師の変化を事例として示したことで明確になった。さらに、2月18日の最終試験では、活動（アクション）とその結果を明確に示すという点でより精選する必要があるとの指摘があったが、この点は論文審査でも指摘した点であり、それらを踏まえた質疑応答がなされた。

### 5. 引用文献の適切性

本研究で得られた結果に基づき、引用文献を用いて適切に考察が述べられている。

### 6. 論文の体系、論旨の一貫性

研究目的、研究方法、結果、考察という一連の流れにおいて、論旨の一貫性が保たれており、必要な記述がされている。また、表題についても副題を加筆し、内容を適切に表すものとなっている。

以上、学位論文の審査基準を満たしていると認められ、最終試験は合格と判定した。